

AV ニュース エクスプレス

「エル・ネットワークショップ～VSAT局を活用してみよう～」平成14年2月6日に開催
メディア教育開発センターがワークショップ「キャンパスのITポリシー作成」を開催
「第45回日本紹介映画・ビデオコンクール」入賞作品
第28回「日本賞」教育番組の国際コンクールでグランプリ決まる
都小視が文京区千駄木小で「研究発表会」を開催

協会情報

■「エル・ネットワークショップ VSAT局を活用してみよう」平成14年2月6日に開催
日本視聴覚教育協会では、文部科学省の助成により、社会教育や学校教育の場で利用できる教材の開発・活用を促進することを目的に、視聴覚センター・ライブラリー等職員、教育委員会職員及び教職員等を対象とするワークショップを開催する。

このワークショップでは、地域において生涯学習講座や教員研修講座などを企画し、その内容を地域独自の映像教材として再構成し、エル・ネット（教育情報衛星通信ネットワーク）により、他の地域や全国配信できることをめざす。

具体的には、講座の企画立案、映像教材の企画構成、収録・編

集に必要な知識について研修し、企画書制作の実習を行う。研修のまとめとして、サンプル映像をエル・ネットから配信し、講師と受講者で協議する。

また、このワークショップの講義を収録し、エル・ネットにより後日、全国放送する。

1. 期日

平成14年2月6日（水）9:00～16:00

2. 会場

東京・上野 国立科学博物館（予定）

3. 活動内容

9:00受付 / 9:40講義 香川徹氏「エル・ネットの現状とこれからの課題」 / 10:00講義 山本恒夫氏「エル・ネットを活用した生涯学習講座の企画立案」 / 10:40休憩 / 10:50講義 石島利男氏「エル・ネットVSAT局について」 / 11:20事

例発表 / 12:00昼食 / 13:00講義 田中伸幸氏「番組制作の実際」 / 14:00実習 企画書の制作・アップリンクの実際 / 15:30協議 司会・山本恒夫氏 / 16:00閉講

4. 講師等

香川徹氏（文部科学省生涯学習政策局学習情報政策課教育メディア調査官）、山本恒夫氏（大学評価・学位授与機構教授）、坂井知志氏（常磐大学助教授）、石島利男氏（独立行政法人教員研修センター事業部研修事業第二課課長補佐）、田中伸幸氏（（財）衛星通信教育振興協会総務部長）他

5. 受講対象

教育委員会職員、学校教職員、視聴覚センター・ライブラリー職員、社会教育（生涯学習）センター職員、公民館職員等

6. 定員 40名

ブックレビュー



「校長・教頭・教委職員・PTA関係者のための『学校情報化のマネジメント』」

岡本薫著 明治図書 2001年10月
刊 A5判 155頁 1,700円(税別)

本書のサブタイトルには“あなたの学校の「IT戦略」に欠かせない24の視点”とある。学校情報化のためにIT戦略を導入するなんて、面倒な、と困惑する向きもある。しかし、本書はそんな感を払拭する読みやすい構成になっている。それは著者が、「わかりやすさ」に重点を置いて著したからだろう。「情報化」というテーマに関し、「戦略レベル」の「スクールマネジメント」を実施していく中で、重要な視点を解説したものが、総てQ&A方式になっている。例えば『情報化とは、どういうことを意味するのか?』から『情報化への対応やその促進に対して「校内の体制」はどう考えればよいか?』という実践論まで、明瞭かつ簡潔な解説がなされている。

『日本にしかない概念と言われる「情報教育」とは、あらゆる情

報を適切に「収集・判断・創造・発信」できる「知識・技能・態度」などを育成するためのもので、スクール・マネジメントにおいては常に「目的」と「手段」を明確に区別する必要がある。』と、繰り返し強調している。また、一般的に混同されがちな、「ルール」と「マナー」、「技能」と「技術」、「ルート」と「方式」、「権限」と「責任」などについても明確にすべきと説いている。

本来、『人に機械を合わせる』（使い勝手など）べきなのに、逆になっている現在、私たち利用者（消費者）が、「もっと使い易くして欲しい」という声を上げ、誰もが簡単に使える道具となるべき。』という言葉には、大きく頷いてしまおう。

学校関係者に留まらず読んで貰いたい一冊。（三浦 佳子）

7. 申込締切

平成14年1月15日（火）

8. 参加費 3,000円

9. 問い合わせ先・申し込み先

（財）日本視聴覚教育協会
WS係 電話 03-3591-2186
<http://www.javea.or.jp>

研究会情報

■メディア教育開発センターがワークショップ「キャンパスのITポリシー作成」を開催

文部科学省大学共同利用機関メディア教育開発センターでは、標記教材研究ワークショップを次の要領で開催する。

1. 趣旨

大学等においてインターネット等のITを授業で効果的に活用するには、教職員のIT技能をいかに高めていくかが重要。そのためには、キャンパス内に教職員の技能開発を支援する組

織が必要であり、IT利用に関するキャンパスとしてのポリシーを作ることが望まれる。ここでは、イギリスの報告書、『高等教育におけるスタッフの通信・情報技術能力を開発する』（2000）とその付属資料を具体的に吟味することを通して、参加者がそれぞれのキャンパスにおけるITポリシーを作成するための示唆を得ることをめざす。教職員のIT技能開発にかかわる教員、または、管理部門の職員、広くIT利用の教育に関心を有する高等教育関係者が対象。

2. 日時

平成14年1月25日（金）11時～16時

3. 会場

メディア教育開発センター（千葉市）

4. 講師

メディア教育開発センター教

授・佐賀啓男氏、同助教授・広瀬洋子氏、同助手・田口真奈氏
5. 参加申込み

12月10日～12月21日の期間に、下記に申込み。参加費無料。メディア教育開発センター事業部ネットワーク研修企画係（鈴木）または研修指導係（山田）電話 043-298-3107 / 3109 Eメール KENSYU@nime.ac.jp <http://www.nime.ac.jp/saga/kenshu/itpolicy.html>

コンクール情報

■「第45回日本紹介映画・ビデオコンクール」入賞作品
（財）日本映画海外普及協会、（社）映像文化製作者連盟主催による標記コンクールは「日本の姿を海外に紹介する優秀な短編映画及びビデオの選奨」を目的として毎年開催されている。今年度は43社53本（うち海外

ブックレビュー



「IT時代のマルチメディア 英語授業入門」

山内豊著、研究社、2001年8月刊
A5判 191頁 2,200円(税別)

現在、教育の中に急速にIT技術がはいるこんでいる。しかし、「いったい、どんな効果があるのだろう」といふかしがっている人も多いはずだ。確かに、「多少便利になりそうだ」とか「子どもの目をひきやすい」とかいう程度の使い方もしばしば見かける。黒板とチョークを使って、教師がいてねいに教えたほうがよほどよいと思う人が出るのも無理はない。

そうした中で、明らかにITが威力を発揮すると言えるのは、外国語教育だろう。本書は、長年英語教育にたずさわってきた著者がITを活用すれば、こんなにもリアルな英語学習ができるということを示した本である。CD-ROMやDVD教材は、従来のLLからはるかに進化し、視覚に訴えたり、対話的に使っ

たりできるようになった。インターネットは、時間と空間を超えて、生きたメッセージのやりとりをすることを可能にした。

本書でとくに充実しているのは、インターネットを利用した調べ学習や交流学习についてである。本書を手にしたその日から、さっそく活かしてみたいと思うことがみつかるだろうし、ハンドブックとして座右において使うこともできる。しかも、本書が単なるマニュアルでないのは、学習者中心の授業観、形成的な評価、研究者としての教師といった考え方に貫かれていて、そうした解説や情報提供も充実している点である。コンピュータの教育利用に積極的な人にも消極的な人にも、インパクトのある本としてすすめたい。

(市川 伸一)

21社24本)の応募があり、入賞作品が以下のように決まった。

金賞 1本

「炎が舞う 那智の火祭り」日本語版、35ミリ、32分、ポニー伝統文化振興財団企画・読売映像製作

銀賞 2本

「The Way of Harmony (調和への方途)」(ブルガリア)ブルガリア語版、ビデオ、30分、Bulgarian Association for Japanese culture製作

「触覚の宇宙 日本の文具・手から心へ」日本語版、ビデオ、35分、伝統的工芸品産業振興協会企画・NHKソフトウェア/イメージサイエンス製作(外務大臣賞も受賞)

優秀作品賞 3本

「屋根を葺く技術 椋皮葺・柿葺」日本語版、ビデオ、45分、文化財建造物保存技術協会

企画・日本電波ニュース社製作

「日本の機械工業シリーズものづくりフロンティア」日本語版、ビデオ、22分、日本機械工業連合会企画・日経映像製作

「おはぎ Bean Cake」(アメリカ)日本語版、ビデオ、13分、David Greenspan製作・監督

なお、12月5日(水)、東京都港区東新橋の徳間ホールにおいて開催される。詳細は(社)映像文化製作者連盟まで(電話03-3501-0236)。

■第28回「日本賞」教育番組の国際コンクールでグランプリ決まる

NHK主催による標記コンクールの授賞式が、11月14日、東京・渋谷のNHKホールで行われた。今回は50か国11機関から寄せられた175本の国際色豊かな番組が寄せられた。さらに今年は、「マルチメディア・コンペ

ティション」も新設された。これは新しい時代のニーズに応え、番組とウェブやCD-ROMなどとの連動による総合的教育効果を評価するもので、その受賞作品も発表された。主な受賞番組は以下の通り。

グランプリ 1本

日本賞「音のない世界で」パブリック・ポリシー・プロダクションズ(アメリカ)一般教養部門最優秀部門賞 4本

外務大臣賞「ふしぎいっぱいアリのくらし」日本放送協会、子ども部門

文部科学大臣賞「あなたの選択 ピアスはだめ？」香港特別行政区放送局(RTHK)(中国)青少年部門

総務大臣賞(グランプリ受賞作と同じ)

東京都知事賞「ドラマシリーズ：YIZO YIZO 2 よみがえれ

エル・ネット 12月放送予定

各番組は、エル・ネットを利用し、全国1700か所の受信施設（公民館・図書館・学校・生涯学習センターなど）に放送されている。

子ども放送局 第2・4土曜日
10:30～15:30

■8日「動物」

夢スタジオ1030「動物」～
こんにちは。動物の気持ちが
わかる?!～輝く子どもたち
「ボクも備前作家になる!」～
岡山県・備前市～/子どもと
しょかん「動物の本」/ミク
口の小宇宙「海の底の生き物
たち」/わくわく恐竜ランド
「恐竜の誕生と進化」/チャレ

ンジ教室「空気のふしぎを解
明! 空気で進め! ホバークラ
フト」

■22日 特別番組

「子ども編集委員会企画番組1」
夢はいつかかなう!～ドリー
ム・カム・トゥルー～/「子
ども編集委員会企画番組2」～命
(ぬち) どう宝(たから)～/
輝く子どもたち「響けわたした
ちの津軽三味線」～青森・金
木町～(再放送)/「子ども編
集委員会企画番組3」～心のバ
リアをふっとばせ!～/「子
ども編集委員会企画番組4」～知
っているかい? 服のいろは～
生中継の番組では、質問・意
見をファックス、電子メールで
募集中!

FAX 03-5790-8154

<http://www.kodomo.nyc.go.jp>

問い合わせ

国立オリンピック記念青少年総
合センター 子ども放送局係

電話 03-3467-1600

家庭教育セミナー 金曜日
14:00～15:00

平成12年度に国立女性教育会館
によって企画・制作された『明日
の親のためのシリーズ』を再放送

■7日「21世紀の子育てのために」
鹿島敬(日本経済新聞社編集
委員・論説委員) 椋野美智子
(日本社会事業大学教授) 山
田昌弘(東京学芸大学教授)
問い合わせ

国立女性教育会館

電話 0493-62-6711

科学史学校 第1日曜日
14:00～16:00

■2日「科学技術の民主的コ ントロールとは何か?」

木原英逸(国士舘大学)

問い合わせ

国立科学博物館

電話 03-5814-9874

学校」南アフリカ放送協会
(SABC)(南アフリカ)、教育
ジャーナル部門

特別賞 4本

国際交流基金理事長賞「太平
洋戦争の悪夢」チャンネル4テ
レビ会社(イギリス)、一般教
養部門

他ユニセフ賞、放送文化基金
賞、前田賞の各賞、及び審査委
員特別推奨賞が決定した。

マルチメディア・コンペティ
ション

ウェブ賞「自由の炎」コロニ
アル・ウィリアムズバーグ財団
(アメリカ)

他パーッケージ賞、審査委員特
別推奨賞が決定した。

各地の情報

■都小視が文京区千駄木小で
「研究発表会」を開催

東京都小学校視聴覚教育研究
会(会長・大内勝墨田区立両国
小学校長)では、「情報化社会
を主体的に生きる力を育てるた
めに、視聴覚教育の果たす役割
を追究し、その実践をひろげよ
う」を大会主題に、下記要領で
研究発表会を開催する。

1.日時

平成14年1月24日(木)
13:45～16:15

2.会場

東京都文京区立千駄木小学校
(文京区千駄木5-44-2)

3.日程

13:00受付/13:45～14:30
公開授業/14:50～15:25全体
会/15:25～16:15講演

4.内容

講演 苅宿俊文氏(大東文化
大学講師)

公開授業 1年～6年の各学

年で公開授業を行う。主な内容
生活科・総合的な学習の時間
(デジタルカメラを活用して、学
習を拡大/機器を活用した楽し
い英語活動/情報活用の基礎・
基本など)

5.問い合わせ

東京都墨田区立両国小学校
校長大内勝氏 電話 03-3634-
8219 [http://www.din.or.jp/
teav/](http://www.din.or.jp/teav/)

短 信

元文部事務次官・(財)衛
星通信教育振興協会理事長の宮
地貫一氏は、平成13年秋の叙
勲において勲二等旭日重光章を
受章した。

(社)日本図書館協会常務
理事・事務局長の酒川玲子氏が
退任、後任には横山桂氏(前京
都産業大学図書館)が就任した。